

PRESS RELEASE

2026年6月3日
株式会社 Henry Monitor
八ヶ岳農業大学校
諏訪信用金庫

Henry Monitor、八ヶ岳農業大学校、諏訪信用金庫が 「次世代型農業モデルの実証」に関する連携協定を締結

八ヶ岳農業大学校に「土壌分析 LABO」を設立。現場での即時分析により、
適時判断可能な農業経営体制を構築

株式会社 Henry Monitor(本社:長野県諏訪市、代表取締役 CEO:小松 隆史、以下:Henry Monitor)、八ヶ岳農業大学校(所在地:長野県諏訪郡原村、理事長:南 壮一郎)、および諏訪信用金庫(本店:長野県岡谷市、理事長:田中 輝明)は、2026年6月2日、次世代型農業モデルの実証連携に関する連携協定を締結しました。本協定に基づき、本年6月2日に八ヶ岳農業大学校内に「土壌分析 LABO」を設立し、三者による共同運営を開始します。

■ 背景と目的:データ駆動型農業への転換と土壌分析の重要性

日本の農業は、生産者の高齢化や労働力不足に加え、資材価格の高騰や気候変動といった深刻な課題に直面しています。こうした状況下で、経験や勘に頼る従来の農業から、データに基づいた効率的なデータ駆動型農業への転換が急務となっています。本協定は、Henry Monitor が持つ高度なセンシング技術、八ヶ岳農業大学校の広大な実践フィールド、および諏訪信用金庫の地域密着型の支援体制を掛け合わせることで、これらの課題解決に挑むものです。

データ駆動型農業を実践する上で、その土台となる土壌状態の正確な把握は不可欠です。しかし、従来の土壌分析は解析結果が出るまでに時間を要することもあり、定期的な分析の実施やリアルタイムでのセンシングを栽培管理に組み込む文化は、まだ広く普及しているとは言えません。結果として、栽培期間中の土壌の変化を継続的にモニタリングし、経営判断に活用している農業経営母体は多くないのが現状です。

本協定による「土壌分析 LABO」の設立は、この現状を打破するための重要な一歩です。八ヶ岳農業大学校での実証モデル構築と、Henry Monitor の実機の開発スピードの加速により、土壌分析をより「身近でフレンドリーなもの」へと進化させ、日々の経営判断に直接生かせる次世代農業のあり方を提示してまいります。

■ 現場での即時分析を可能にする「土壌分析 LABO」の役割

この課題を解決するため、このたび設立される「土壌分析 LABO」では、安価かつスピーディーに土壌状態を把握できる仕組みを構築します。これにより、分析結果をそのシーズンの栽培管理に即座に反映させることが可能となります。将来的に三者は、この実証モデルを地域の多くの農業従事者へも展開・普及させていくことを目指します。

■ 連携協定の主な内容

三者は、地域社会の持続的な発展に資することを目的に、以下の事項について連携・協力します。

1. Henry Monitor が提供する土壌分析商品の共同開発
2. 「土壌分析 LABO」の共同運営およびノウハウの提供
3. 農業センシング・土壌分析に関する知見の蓄積と地域振興への活用
4. 次世代農業従事者に向けた教育コンテンツの共同開発
5. その他、三者が合意する地域農業の活性化に関すること

■ 具体的な取り組み

本連携における最初の取り組みとして、今季より当校内の広大なフィールドを活用した実証を開始します。当校の主力産品であるブロッコリーやトウモロコシの大規模栽培、および現在推進している 10 ヘクタールの花畑プロジェクトにおいて、「土壌分析 LABO」での分析結果を実際の施肥計画や栽培管理に活かしていきます。八ヶ岳農業大学校の実習生が最新の分析技術を実習に取り入れ、科学的根拠に基づいた意思決定ができる農業人材を育成します。なお、今後、さらに対象品目を広げていく予定です。

■ 各代表者コメント

株式会社 Henry Monitor 代表取締役 CEO 小松 隆史

「このたび、八ヶ岳農業大学校様、諏訪信用金庫様と三者で連携できることを大変心強く感じています。Henry Monitor のセンシング技術だけで農業の課題を解決するのではなく、八ヶ岳農業大学校様が持つ実践の場と人材育成力、諏訪信用金庫様が地域に根差して培ってこられたネットワークや伴走支援の力が重なることで、はじめて地域に根づく持続可能なモデルが形になると考えています。本連携を通じて、土壌分析を起点に、地域農業の未来を支える新しい共創のかたちを諏訪・八ヶ岳エリアから発信してまいります。」



八ヶ岳農業大学校 校長 兼 専務理事 丸山 侑佑

「当校では『テクノロジー』『サイエンス』『マーケティング』を重視した教育を推進しています。校内に土壌分析 LABO を設け、自分たちで分析したデータを即座に栽培に反映させる経験は、当校の実習生にとって何よりの実践的な学びとなります。未経験からでも成果を出せる持続可能な農業モデルを、この地域から発信してまいります。」



八ヶ岳農業大学校 土壌分析 LABO センター長 だろだんご先生

「このたび、八ヶ岳農業大学校 土壌分析 LABO センター長に就任いたしました。これまで私は、砂場研究家として、世界各地の砂場や土に触れながら、「こども達と土の関係」について研究を続けてまいりました。砂や土は、ただの地面ではありません。水を含み、空気を通し、微生物が生き、植物を育てる。そこには、目には見えない無数の営みがあります。土壌分析 LABO では、土壌を単なる数値として扱うのではなく、現場の感覚や環境とのつながりも大切にしながら、未来の農業や教育につながる研究・発信を行っていきたいと考えております。八ヶ岳農業大学校だからこそできる、実践と研究が結びついた土壌分析の形を模索しながら、農業に関わる皆さまと共に学び、新しい農業に取り組んでまいります。」



諏訪信用金庫 理事長 田中 輝明

「地域金融機関に求められる役割のひとつは、企業や地域の“見えない価値”を理解し、その可能性を信じ、共に育てていくことだと考えております。農業においても、土づくり、人づくり、地域との繋がりとといった非財務的な積み重ねが、最終的には収益力や持続可能性に繋がっていきます。今回の連携は、Henry Monitor 様のセンシング技術と、八ヶ岳農業大学校様の実践的な教育・研究環境を掛け合わせることで、土壌という“見えない資産”を可視化し、データに基づく新たな農業経営モデルの構築を目指すものです。当金庫としても、本連携を通じて、地域農業の発展と次世代人材の育成に貢献し、地域の未来を支える挑戦を後押ししてまいります。」



【株式会社 Henry Monitor について】 <https://henrymonitor.com/>

株式会社 Henry Monitor は、長野県諏訪市に本社・ラボを置き、独自の磁界式センサーとAIを活用して、これまで見えにくかった土壌状態や材料特性の可視化に取り組むテクノロジー企業です。2006年から小松精機工作所で培ってきた研究開発を基盤に、2020年6月に新会社として設立。農業分野では、薬品を使わず短時間で土壌成分を推定できる分析技術の社会実装を進め、圃場での迅速な意思決定を支援しています。センシングとAIの力で、地域産業の現場に新たな判断軸を提供してまいります。

【八ヶ岳農業大学校について】 <https://yatsunou.jp/>

1938年開校。八ヶ岳の麓、標高1,300mに位置する、総面積267ヘクタール(東京ドームの敷地面積の60倍以上)の広大な農場のキャンパスで、実習生が実践的な農業を学ぶ(畑作、花卉、酪農、養鶏など耕畜両面)。また毎年1万人近い小中高生に農業体験学習を提供。人気のプログラムを一般向けにも提供。2025年、10ヘクタール100万株の広大な花畑を開始。校内には直売所も設置され、当校の生乳100%の牛乳やその牛乳を使用したソフトクリーム、アイスクリームなどの乳製品、平飼いの鶏が産んだ卵、当校の生乳100%の牛乳と平飼い卵を使用した生ミルククッキー、当校の実習生が育てた高原野菜や花々、地元の特産品などを販売。当校の最新情報は当校の公式Instagramをご確認ください。

<https://www.instagram.com/yatsunou.since1938/>

【諏訪信用金庫について】 <https://www.suwashinkin.co.jp/>

1937年(昭和12年)創業。創立90周年を迎える協同組織金融機関です。創業以来、「地域とともに歩む金融機関」として、長野県諏訪地域を中心に、地域事業者や住民の皆さまとの対話を重ねながら、地域経済の発展に取り組んでまいりました。近年は、創業支援、事業承継、経営改善、地域再生などに加え、将来キャッシュフローや非財務情報にも着目した事業性評価を推進し、伴走型支援を強化しています。また、行政・教育機関・民間企業との共創による地域課題解決にも積極的に取り組んでいます。本連携を通じて、地域農業の持続可能性の向上と次世代型人材育成に貢献し、地域に新たな価値を生み出してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

八ヶ岳農業大学校 PR 担当 E-mail: project.m@yatsunou.jp